足元の金価格の動向について

amova アモーヴァ・アセットマネジメント

2026年10月14日　ご参考資料

金(スポット)価格は、2026年1月下旬に1トロイオンスあたり5,000米ドルを超えて、史上最高値を更新しました。しかし、その後は、調整局面入りし、足元では4,100米ドル台で推移しています。2026年初、金融市場では、米国において年内2回の利下げを織り込む傾向にありましたが、中東情勢の緊迫化を背景とした原油高などからインフレ懸念が再燃し、利上げを織り込む展開へと転換しました。

米FRB(連邦準備制度理事会)は2026年9月に0.25%の利上げを実施し、米長期金利(10年国債利回り)は2000年台以来の高水準である5%台へ上昇しています。実質金利(名目金利から物価変動の影響を除いた金利水準)の上昇と米ドル高が、金価格の上昇を抑制する要因になったとみられます。また、2026年8月末以降の下落には、米金利の上昇や米ドル高に加え、先物市場でのヘッジファンドなどの投資行動が影響したとみられます。2026年9月末には、米国の対イラン強硬姿勢や中国の国慶節連休前の利益確定売りも重なった模様です。

一方で金に対する投資需要は堅調で、2026年9月の世界の金ETF(上場投資信託)への流入額は約100億米ドル規模、第3四半期合計では300億米ドル超であり、高金利環境下でも、金への変わらぬ需要があることを示しています。足元の金(スポット)価格は4,100米ドル台で推移しており、4,000米ドル近辺を下値支持線として意識する投資家も見られます。

短期的には引き続き、米金利と米ドルの動向が、金価格の下押し要因になる可能性があるものの、金相場を支える構造に変化はないとみられます。高水準にある世界の債務総額、中央銀行や中国による根強い現物需要、外貨準備における米ドルの信認低下傾向、地政学リスクの高まりなどを支援材料として、再び、金価格が上昇傾向に転じることが期待されます。また、高金利の長期化は利払い負担を通じて財政不安を高め、結果として金需要を押し上げる可能性があります。

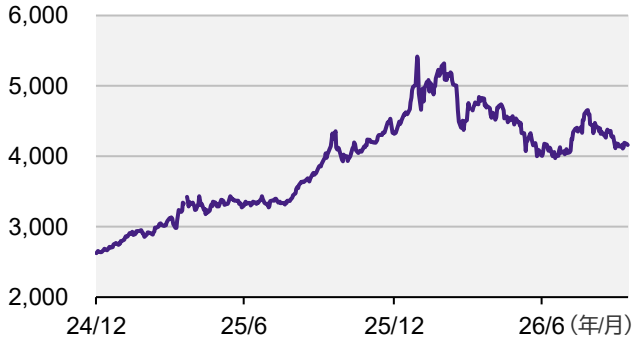
当面の焦点として、2026年10月末に米FOMC(連邦公開市場委員会)が予定されています。金融市場において、利上げ観測は後退しているものの、引き続き長期金利が高止まりする場合には、金融市場の関心が金融政策から財政リスクへ移行している可能性があります。財政リスクが意識されることは、金需要の下支えにつながる可能性があります。一方、さらなる米ドル高や実質金利の上昇に加え、市場混乱時の換金売りによって、短期的な価格変動が拡大する可能性には注意が必要です。それでも、実物資産であり、株式や債券と異なり、発行体の信用リスクが存在しない金は、価値がゼロになることはないとされていることなどから、中長期的な分散投資の選択肢としての重要性は変わらないとみています。

※上記はステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズのコメントを基に、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成したものです。当情報は、資料作成時点における市場環境について記載したものであり、将来の市場環境の変動や運用成果等を保証するものではありません。また、見解は変更される場合があります。

[金(スポット)価格の推移]

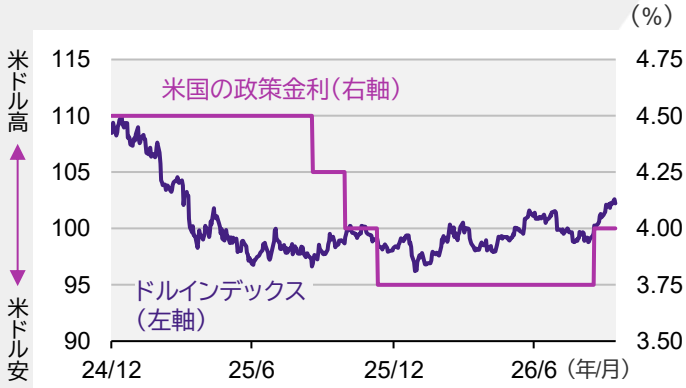
2024年12月末～2026年10月13日 / 日次

(米ドル/トロイオンス)



[ドルインデックスと米国の政策金利*の推移]

2024年12月末～2026年10月13日 / 日次



＊フェデラル・ファンド・レート上限

信頼できると判断した情報に基づき、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成　※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社

2025年9月1日付で、日興アセットマネジメント株式会社から社名変更しました。

当資料は、アモーヴァ・アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。